

● AICS®の結果に影響を与える可能性がある病気について

現在下記の病気にかかっている方は、AICS値に影響を与える可能性があります。検査の対象外とするものではありません。

AICS®を受診することによって、がんを発見できる機会となると同時に、下記の病気による影響で、がんではないのにAICS値が高くなりうることをご理解いただいた上で、ご受診ください。

現在までに各種AICS®の結果に影響を与える可能性がある病気

- ・AICS(肺) ……慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、肺結核、肺気腫、無気肺
- ・AICS(前立腺) ……前立腺肥大、糖尿病
- ・AICS(子宮・卵巣) ……子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍
- ・複数のAICS® ……脳梗塞

● 検査前に症状があった場合は、どうすればよいのでしょうか？

AICS®は、症状のない方を対象とした検査です。あきらかな症状がある場合は、医療機関を受診することをお勧めいたします。

● 検査はどのように行われるのでしょうか？

血液を5mL程度採血して検査を行います。1回の採血で、男性AICS®は5種類、女性AICS®は6種類のがんについて、現在がんである可能性の検査を行います。

● 検査の結果はどのくらいで報告されるのでしょうか？

検査結果が報告される日数については、受診する医療機関におたずねください。

● 検査の費用について

この検査には健康保険は適用されません。検査の費用については受診される医療機関におたずねください。

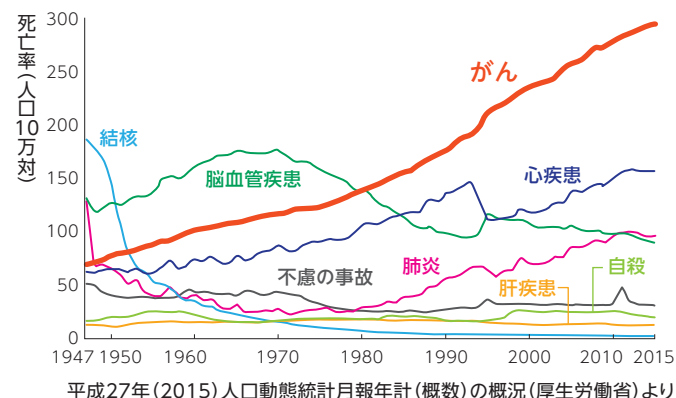
● 受診前の注意点

- ・検査前8時間以内に、水以外(食事、サプリメント等)は摂らないで、午前中に採血してください。
- ・検査時に妊娠されている方、授乳中の方、がん患者(治療中を含む)の方、先天性代謝異常の方、透析患者の方は、AICS値に影響がありますので検査は受けられません。

● 日本における死因別死亡率の推移

日本における、がんによる死亡者数は一貫して増加しており、1981年以降死因の第1位となっています。

また、2015年には、全死亡者数129万444人中、がんによる死亡者数は37万346人となり、死亡者の約3.5人に1人ががんにより死亡しています。



● がん検診のすすめ

近年、がんの診断技術や治療法は急速に進歩しています。早期にがんを見つけ、早期に適切な治療を行うことにより、がんによる死亡のリスクを減らすことができることから、定期的ながん検診による早期発見が重要です。

技術開発:味の素株式会社

医療機関名

aminoindex、AICS®は、味の素株式会社の登録商標です。

1回の採血で、
 複数のがんの可能性を評価!

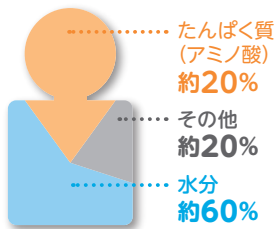
アミノインデックス® がんリスクスクリーニング

監修:三井記念病院 総合健診センター 特任顧問
 足利工業大学 看護学部 学部長
 山門 實



●人のからだとアミノ酸

人のからだは約60%が水分で、約20%がたんぱく質できています。人のからだを構成しているたんぱく質は、20種類のアミノ酸から作られています。



●病気とアミノ酸バランス

アミノ酸は血液にも含まれており、健康な人の血液中のアミノ酸濃度は、それぞれ、一定に保たれるようにコントロールされています。

しかし、さまざまな病気になると、一定に保たれている血液中のアミノ酸濃度のバランスが変化することが分かっています。

●アミノインデックス®とは何ですか？

アミノインデックス®とは、血液中のアミノ酸濃度のバランスから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする検査です。

現在は、がんである可能性を評価する、「アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS®)」検査が可能となりました。

●アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS®)とは何ですか？

アミノインデックス®がんリスクスクリーニング(AICS®: AminoIndex® Cancer Screening)とは、血液中のアミノ酸濃度を測定し、健康な人とがんである人のアミノ酸濃度のバランスの違いを統計的に解析することで、現在がんである可能性を評価する検査です。早期のがんにも対応しています。

●AICS®(エー アイ シー エス)は全てのがんの可能性が評価できるのですか？

胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん(男性のみ)、乳がん(女性のみ)、子宮がん・卵巣がん*(女性のみ)を対象としたがんの可能性について評価することができます。

検査項目	対象となるがん種
男性AICS(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん
女性AICS(6種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん、子宮がん・卵巣がん*

※子宮がん・卵巣がんについて

子宮がん・卵巣がんは、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんを対象としています。子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんのいずれかのがんである可能性について評価することができますが、それぞれのがんの可能性について区別することはできません。

●AICS®の報告内容について

AICS®は、それぞれのがんについて、現在がんである可能性を0.0~10.0の数値(AICS値)で報告いたします。数値が高いほど、現在がんである可能性が高くなります。

また、このAICS値から現在がんである可能性を判断する目安として、「ランクA」「ランクB」「ランクC」の3段階に分類しています。

ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0

低い ← がんである可能性 → 高い

●ランク別の、がんである可能性はどのくらいなのですか？

一般的に、1,000人に約1人(約0.1%)が、がんであると言われていています。AICS®における、ランク別の、がんであるおおよその確率は以下のとおりです。

ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0
AICS(胃)	胃がん 1/3,200[0.3倍]	1/625[1.6倍]	1/98[10.2倍]
AICS(肺)	肺がん 1/2,963[0.3倍]	1/536[1.9倍]	1/111[9.0倍]
AICS(大腸)	大腸がん 1/2,000[0.5倍]	1/789[1.3倍]	1/122[8.2倍]
AICS(膵臓)	膵臓がん 1/3,478[0.3倍]	1/789[1.3倍]	1/86[11.6倍]
AICS(前立腺)	前立腺がん 1/2,222[0.5倍]	1/469[2.1倍]	1/156[6.4倍]
AICS(乳腺)	乳がん 1/1,509[0.7倍]	1/556[1.8倍]	1/250[4.0倍]
AICS(子宮・卵巣)	子宮がん・卵巣がん 1/4,000[0.3倍]	1/682[1.5倍]	1/86[11.6倍]

【 】:一般の方の有病率を1とした場合の、がんである倍率を示しています。

例えばAICS(胃)では、胃がんの有病率(一般の方が、胃がんである確率)を1,000人に1人とした場合に、ランクAでは3,200人に1人が、ランクBでは625人に1人が、ランクCでは98人に1人が、胃がんであることを示しています。

●「ランクA」であれば、がんではないのでしょうか？ また、「ランクC」であれば、がんなのでしょうか？

この検査は、がんである可能性を評価する検査で、がんであるか否かをはっきりと判断するものではありません。

がんである可能性が0の人はいませんので、「ランクA」でも、がんでないとは言いきれませんし、「ランクB」や「ランクC」であっても、必ずがんであるということではありません。

また、血液中のアミノ酸濃度は、さまざまな原因で変化しますので、がん以外の病気でもAICS値が高くなり、「ランクB」や「ランクC」になる場合があります。

AICS®は、その他の検査結果とともに総合的に判断されるものです。がんである可能性に対する考え方や感じ方は個人により異なりますので、本検査結果の解釈やその他の必要な検査に関しては、医師にご相談ください。



●AICS®を受診すれば、他のがんに対する検査は必要なのですか？

AICS®は、今までのがん検診とは異なり、血液中のアミノ酸濃度からがんの可能性を評価する新しい検査です。今までのがんに対する検査と併用することで、がんを見つけだせる可能性が高くなると考えられます。その他の検査も受診されるかは、医療機関の医師とご相談ください。

●AICS®は1度検査をすれば良いのでしょうか？

この検査は、採血を行った時の、がんである可能性を評価する検査です。生涯に渡ってのリスクを予測するものではありませんので、定期的な検査をお勧めいたします。

●検査の対象者について

AICS®は、下記年齢の日本人を対象として開発された検査です。これらの方以外のAICS値は報告されますが、評価対象外となります。

検査項目	対象となるがん種	対象年齢
男性AICS(5種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん	25歳~90歳
	前立腺がん	40歳~90歳
女性AICS(6種)	胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、乳がん	25歳~90歳
	子宮がん・卵巣がん	20歳~80歳